

学年：2年	単元名：どんな計算になるのかな
-------	-----------------

1. 単元目標：(全2時間)

○2位数の加減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。

考・表・場面をイメージし動作化することで、演算決定をしようとする。

- ・絵を見て、作問する。

技・知・適切な立式をして、問題を解決することができる。

・

2. 指導内容

- ・2位数の加減についての演算決定

3. 指導のポイント

○場면을イメージし動作化する。

- ・動作化することによって演算決定をしていく。

「手が、こうなるから、たし算です。」というような表現でいいと思う。

- ・演算決定の根拠を動作化におきたい。

- ・ことばでの演算決定は、逆思考の問題で困難になる。

○問題文は、指導者が、場면을イメージしやすいように動作を加えながら読むのがいい。

- ・指導者が、読む→時間的経過を守るため。

映像的イメージを子どもの頭の中にするため。

○できれば、図に表して、演算決定もさせたい。(カードとブロックでもよい)

- ・特に求差の問題を図にかいて考えさせたい。

4. 指導にあたって

①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。

- ・場면을イメージして、それを動作化で表現すること。
- ・動作化のよって、演算決定すること。

②それを通してどんな子どもに育てたいか。

- ・時間的経過に従って場면을映像的にイメージできる子ども。
- ・自分の描いた映像的イメージを動作で表現できる子ども。
- ・自分の描いた映像的イメージを1つの絵(絵画的イメージ)に表現できる子ども。
(情景図・○図)
- ・絵や図を見て、それを記号化できる子ども。

5. 学習展開

第1時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○どんな計算になるか考えて、答えを出そう。（P36）

○問題文を聞いて、

- ①動作化し、演算決定をして、
- ②立式をして、
- ③計算して答えを出す。

（1のながれ）

T:赤い花が12本（情景を思い浮かべるような動作、子どもと一緒に）

黄色い花が24本 さいています。（情景を思い浮かべるような動作、子どもと一緒に）

花は、ぜんぶで（情景を思い浮かべるような動作、子どもと一緒に） 何本さいていますか。

※2～3回繰り返す。

T:何算ですか。

C:手をこういう風にするからたし算です。

T:では、式はどうなりますか。

C:12+24です。

T:ひっ算の形にして答えを出しましょう。

2—多いのは、どちらかということを確認する。

3—7人ではなく7台であることをおさえる。

4—多いのは、どちらかということを確認する。

第2時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○たし算ひき算の問題をつくらせて解こう。（P36）

P36の絵を見て、問題をつくらせよう。

1. 例題を示す。（増加・合併・求残・求差の問題をつくることを説明し、例題を示す。）
「1番のような問題・2番のような問題・3番のような問題・4番のような問題を作ろう」と問いかけてもよい。（動作化しながら説明する）
場面設定は、P36であるが、数量は、2桁の数で適当に考えさせる。
2. 問題をつくる。
 - ①WBに問題をかき。（名前をかき。）
 - ②式と計算と答えをノートにかき。
 - ③先生に見てもらい確認する。（○をもらい。）
・実生活にありえないような場面設定は、修正させる。
 - ④WBを黒板に貼る。
3. 問題を解く。
 - ①WBの友達の問題を解く。
 - ②作者のところへ行って、○をもらい。 ※くりかえす。